

みる つくる がた

千葉県立美術館報

VOL. 16 NO. 2

(通巻61号)

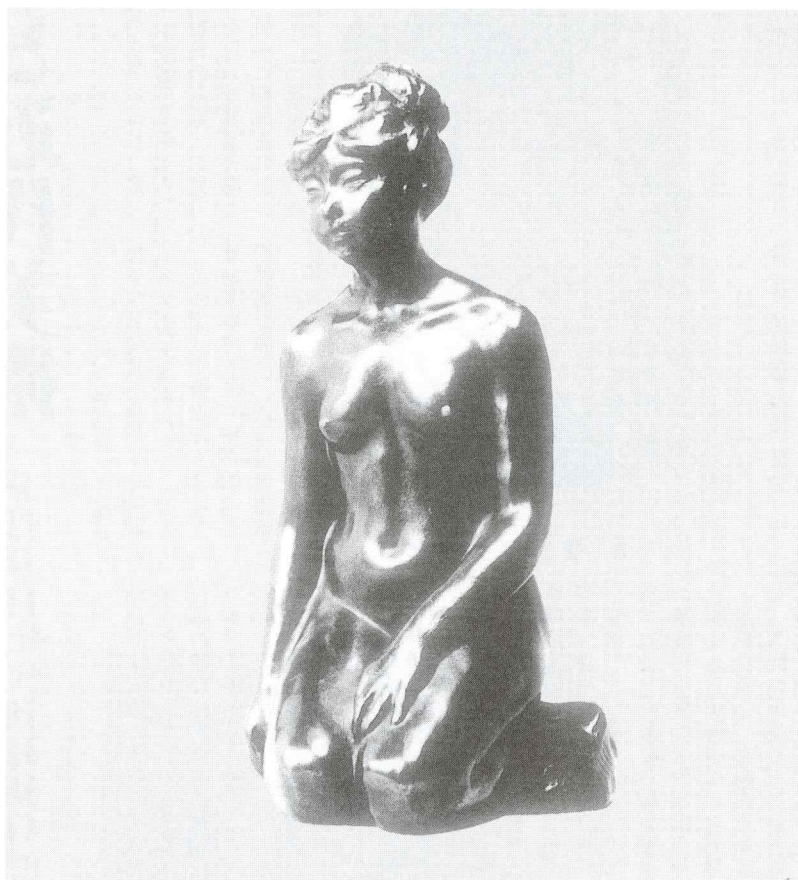
平成元年 8月10日発行

編集・発行人 竹内一雄

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



高村光太郎「裸婦座像」

新収蔵作品のなかから、光太郎の「裸婦座像」を紹介します。本作品は、昭和63年度に、美術品取得基金により購入した光太郎作品8点の内の一つです。

光太郎は、近代の彫刻家では、裸婦像制作の少ない作家でしたが、「裸婦座像」は、晩年の「十和田裸婦像」を除いて唯一の全身裸婦像です。

モデルの女性は、百合子という名でした。横浜本牧の小料理屋で働いていましたが、本牧での生活を嫌って逃げ出したのを、何かの事情で光太郎がかくまっていたことになりました。その頃、光太郎に請われてモデルになり、光太郎は彫刻を制作し、妻の智慧子は油絵に描きました。

量感と力強さに溢れる作品が多いなかで、小料理屋の女をモデルにした「裸婦座像」は、少しの力みもなく、ふくよかさの内に女の悲哀を秘めた表情と、均整のとれた姿態を素直で、柔らかな作風で表現しています。「草の芽」と愛称されるほですががしく、愛くるしい作品です。

(田坂 浩)

特別展

白樺派と近代美術

9月9日(土)～10月15日(日)

明治末から大正期にかけ、武者小路実篤、志賀直哉らは雑誌『白樺』を発行し、当時の文芸界に新風を送り込みました。特に同誌は文芸雑誌であるとともに美術雑誌として、西洋美術の紹介を盛んに行い、近代日本美術の発展に大きな影響を与えました。同誌に集った文学者、画家たちを「白樺派」と呼んでいます。

雑誌『白樺』が創刊された明治43年(一九一〇)四月は、文壇画壇にとって重要なエポックを形成する時期にあたります。すでに明治41年に「明星」が、42年に「スバル」などが創刊されており、また青年画家たちが次々とヨーロッパから帰国しました。

明治41年 荻原守衛

42年 斎藤与里、高村

光太郎、柳敬助

43年 藤島武二、南薫

造

彼らは、ヨーロッパで新しい

美術と自由の世界にふれ、高村光太郎は、帰国の翌年『スバル』に「緑色の太陽」を発表し、高らかに人間宣言を唱えました。41年に結成された

摸索する時代へ移行する時期でありました。

このような背景をもとに、雑誌『白樺』は、積極的に美術特集を組み、西洋美術の紹



白 樺 大正10年7月号

文学者と画家のサロン「パンの会」では、〈因循な封建時代の遺風に反対する政化主義〉が謳歌しています。真に、江戸時代からの伝統的封建制に反対し、新しい自由の世界を

介と啓蒙に努めています。文芸雑誌が美術を取り上げるということは、すでに明治30年代から認められるところですが、『白樺』は同人の精神的貴族主義から教養としての美

術に対する強い愛好が美術運動へとかりたてていきました。作家の紹介にあたっては、ギリシャ古典からルネサンス、写実主義、下限はアンリ・ルソー、マティスに至る幅広いものですが、特にセザンヌ、ゴッホ、ロダンは頻繁であり、後期印象派関係のものが圧倒的に多く掲載されています。ゴッホやゴーギャンの数奇な運命が若い画家たちの間に〈人生〉や〈人間〉を考える情念を醸成することにより、広く青年知識層に〈自己の自覚〉を触発しました。〈自己の自覚〉により画家たちは、従来の現実の否定的な現象を忠実に描くことに陥っていた自然主義を打破し、人間性を尊重し、人間の創造力、生命力に目を向け、自己の主観的現実を描くことが重要テーマであり、何を描くか「から」どのよう描くかを追求しました。まさに、個性豊かな直感的な

作品が数多く輩出されていきました。

この展覧会では、雑誌『白樺』が果たした業績の中で、白樺派として活躍した画家、彫刻家をはじめ、『白樺』が紹介したセザンヌ、ロダンをはじめ後期印象派の作品を、次の四つのテーマにわけ展示します。

(1) 白樺が紹介した外国作家たち

『白樺』創刊号でドイツ絵画を紹介したのをかわきりに、第1巻第2号では、有島生馬が「画家ポール・セザンヌ」と題し掲載しております。これらは、誌上での文章と写真ではありましたが、メディアの少ない当時、その役割は多大なものがありました。さらに同巻第8号は「ロダンの70回誕生記念号」として、はじめて特集号を発刊し、以降多くの作家の特集を組んでいます。『白樺』が誌上で取り上げた外国作家数は70名を越していますが、今回の展覧会では、その中から当時の若い画家たちに強烈な衝撃を与えた後期印象派の画家たちを中心に展示します。



白 樺

大正11年 5月号

〔出品作家〕

ミレー、コロ、クールベ、セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン、ルノワール、マティス、ピサロ、ルドン、ルソー、ムンク、ロダン 計13作家
(2)白樺派の作家たち

『白樺』は誌上の活動ばかりではなく、明治43年主催の第1回展覧会として「南薫造・有島壬生馬滯欧紀念絵画展覧会」を開催しました。以降、計17回の展覧会を実施しております。特に、明治44年の「白樺社主催洋画展覧会」では、反官展の色彩を強く打ち出し、多くの革新的青年画家たちが結集し、沈滞した日本の美術界へ刺激を与え、フュザン会、草上社の活動へと移行していくこととなります。ここでは、『白樺』の誌上を通し、また主催展覧会で活躍した画家たちを中心に紹介します。

〔出品作家〕

南薫造、河野通勢、山脇信徳、長沼智恵子、有島壬生馬、斉藤与里、梅原良三郎（龍三郎）、白滝幾之助、湯浅一郎、坂本繁二郎、藤島武二、山下新太郎、柳敬助、中村彝、橋本邦助、浜田葆光、椿貞雄、岸田劉生、中島正貴、清宮彬（以上 画家）、戸張孤雁、荻原守衛、毛利教武、高村光太郎（以上、彫刻家） 計24作家

(3)白樺と初期民芸運動

『白樺』の創刊から参加していた芸術理論家・柳宗悦は活動を通してウィリアム・モリスの反近代主義的工芸運動に共鳴し、後半期の『白樺』では朝鮮民族美術を中心に工芸運動を展開しております。いわゆる「民芸運動」がはじまるのは昭和に入ってからですが、その形成過程が『白樺』にあったと言えます。ここで

は、柳の理論を实践した二人の陶芸作家を紹介します。

〔出品作家〕

バーナード・リーチ、富本憲吉 計2作家

(4)白樺の同人たち

雑誌『白樺』は文芸誌として、その同人の大半は、言うまでもなく文学者であります。しかし、彼らは文学にとどまらず、絵画、書など幅広い活動を行っております。ここでは同人たちの美術活動の一端を展覧いたします。

〔出品作家〕

武者小路実篤、児島喜久雄、千家元麿、長与善郎、里見淳、志賀直哉 計6作家

この他、大正4・5年から白樺村の観を呈した我孫子市の足跡についても紹介いたします。

□会 期

平成元年9月9日（土）～10月15日（日） 午前9時～午後4時30分（入場は4時まで） 月曜休館

□観覧料

一般500円（300円）高・大学生300円（200円）小・中学生200円（70円）（ ）は20名以上の団体料金

（前川 公秀）

第4回現代日本具象彫刻展
作品公募始まる

千葉市の「青葉の森公園」にすぐれた具象彫刻作品を設置するため、昭和59年度から63年度にかけて、千葉県・千葉県教育委員会の主催により「現代日本具象彫刻展」が、



第3回現代日本具象彫刻展(1989.2.4～2.26)

【作品搬入日】平成元年12月16日（土）～17日（日）

【会期】平成2年2月2日（金）～2月25日（日）

【会場】千葉県立美術館

応募要項の請求等、詳細は学芸課にお問い合わせ下さい。

（大久保 守）

平成元年度 常設 収蔵作品展Ⅰ期(後期) 8/1 ~ 10/15

今年度の収蔵作品展第1期は、3つのコーナーで構成されています。

第1部では「動物の表現」と題して、動物をモチーフとした作品を紹介します。

人間と生活や労働を共にして、家族同様の愛情で描かれた動物。奇抜な造作で人々の好奇心を誘う異国の動物。そして自然な習性や動きが神秘的な野性の動物などが、描か

れています。

また、作家の表現内容として見た場合には、作家の分身として、その心情を代弁したり、人間社会や身辺の出来事への批判を比喩的に扱うための手段であつたりと、そのテーマは様々です。

モチーフとしての「動物」は、人間の思い通りの動きをとってくれないところが難点ですが、それだけにその動きや表情は生き生きとした自然な魅力に溢れています。そして大自然の産み出した個性豊かな造形は、その機能性や神秘性で作家たちの創作意

欲を駆り立てます。

作家たちの表現方法も伝統的なものから現代的な抽象形態まで、古今様々です。

以下は主な展示作品です。
日本画 浅井忠「猿の図」、富取風堂「群魚」、渡辺学「夜」、立石春美「狗」他

洋画 トロワイヨン「河辺の道」、ミレー「垣根に沿って草を食む羊」、安藤信哉「牧歌」、板倉鼎「金魚」、鰻「BIRDS」他

版画 浜口陽三「うさぎ」他
工芸 津田信夫「変貌七色」
「月下妖麗」「蜻蛉耳花生」
大須賀喬「昆虫文飾皿」・他

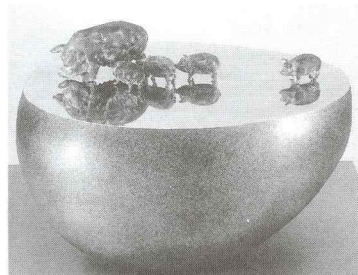
彫刻 鈴木章「七面鳥」・柳原義達「風の中の鴉」、鈴木

徹「馬と娘の恋物語」他

第2部では「新収蔵作品」のコーナーを設け、高村光太郎の彫刻を始め、新しく収蔵した作品を随時、紹介します。

第3部では「素描」と題して素描作品を紹介します。

「素描」をみると、作家がどの様に画面を組み立てているかといった技術的なことをはじめ、作家がどの様にモチーフを捉えているのか、



浦野八重子「生きるということ」

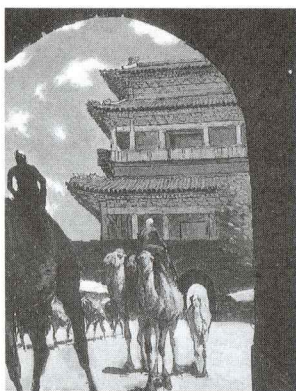
とか作家の作風の持ち味などを知ることが出来ます。それは、また「作家の素顔の魅力」を解く鍵とも言えるでしょう。鉛筆・コンテ等の材料のみによる濃淡とタッチでどこまでモチーフを表現できるのか、その可能性と多様性を御覧下さい。

以下は主な展示作品です。

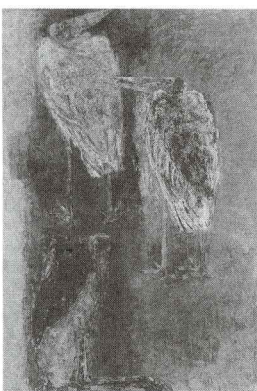
浅井忠「玉川」「はたらく婦人」・中林儼「保津川上流」柳敬助「デッサン(腰かける裸婦)」・田中志奈子「デッサン(神官)」・安井曾太郎「デッサン(裸婦)」・原勝郎「デッサン(C)」・鶴田吾郎「中山競馬場」・須田国太郎「デッサン(能舞台)」

中西利雄「T嬢」他
●「動物の表現」 9/3
●「新収蔵作品」 10/15
●「素描」 10/15

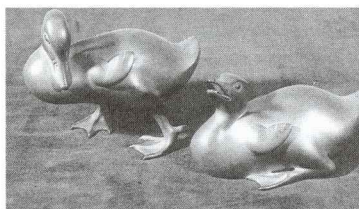
(相川 順子)



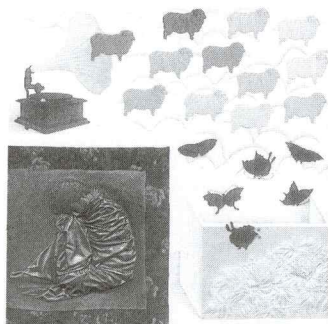
鶴田吾郎「憶ひ出の広安門」



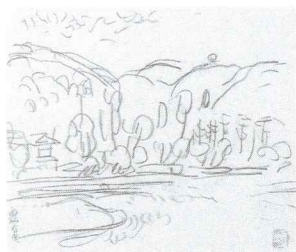
羽生智樹「動く気配の鳥」



津田信夫「子迷家鴨」



堀口 光彦「安眠装置」



須田国太郎「水辺風景」



田中志奈子「デッサン(箒を持つ女)」

情報資料室から

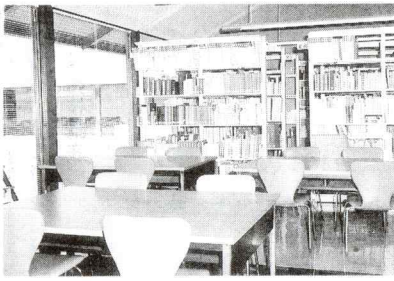
—新着図書のお知らせ—

◇『世界美術大事典』第2巻
(かーさ)第3巻(しーて)

豊富なカラー図版で楽しく世界の美術文化を調べることができま。観光ガイドとしても役立ちます。

◇『秘蔵浮世絵大観』第9巻

ベルギー王立美術館に収蔵されている浮世絵コレクションを紹介。ピング・コレクションとして一括収蔵されたもので、ジャポニズムを研究する上でも貴重な資料でしょう。喜多川歌麿、鈴木春信等カラー図版二四五点を収録。



◇『アトリエ美術技法百科』全11巻

第1巻より第4巻油彩画、第5巻水彩・パステル・スケッチ、第6巻基礎デッサン、第7巻石膏デッサン、第8巻鉛筆デッサン、第9巻彫塑・陶芸・革工芸、第10巻基本デザイン、第11巻イラストレーションという構成になっています。初心者の方から上級者の方までどうぞご利用下さい。

◇『復刻版現代の洋画』全28号29冊

明治45年4月の創刊号から大正3年7月の終刊号までを復刻。当時の最新の美術情報を紹介しており、執筆者には、高村光太郎、木村莊八、岸田劉生、石井柏亭、藤島武二らがあります。近代美術史を理解する上で大変役立つ資料です。

◇『明治ニュース事典』全9巻

慶応4年から明治45年までの新聞記事から人物、事件、事項について50音で引ける事典です。政治、経済、芸能、文化と幅広い範囲で膨大な資料が収録されており、多くの方に御利用いただきたいと思

います。

以上の他、『高山辰雄自選画集』、『高山辰雄屏風画集』、『正岡子規を中心に』(香取秀真著)等の図書を購入しました。

利用案内

情報資料室は美術図書を中心に、美術雑誌、新聞、展覧会図録、美術館・博物館・大学の年報・紀要・収蔵品目録を収蔵しています。

特に浅井忠、石井柏亭、香取秀真、東山魁夷など本館収蔵作家に関する資料をそろえております。

開室日は火・水・木・金曜日、開室時間は12時30分から4時30分までです。貸出し及びコピーサービスは行なっていません。展覧会図録、一部図書資料、雑誌のバックナンバー等は閲覧室に配架しております。閲覧希望の方は係の者にお申し出ください。なお、大きな手荷物はコインロッカー(無料)を御利用ください。

美術館調査研究員

平成元年度、千葉県立美術館調査研究員は次の10氏に決定した。

石倉総子(千葉市立こてはし中学校)、大須賀久大(成田市立遠山中学校)、岡野重義(千葉県立佐倉高等学校)、加曾利和夫(千葉市立高洲第二中学校)、倉次和也(佐倉市立印南小学校)、高木正(大栄町立桜田小学校)、羽生智樹(千葉県立八千代高等学校)、平戸美和子(千葉市立さつきが丘東小学校)、南隆一(横芝町立横芝中学校)、綿貫啓一(船橋市企画部情報管理課)

今年度は、学芸課と並び普及課という新しい課が誕生したこともあり、美術館の普及活動について検討し、いっその充実発展を図るために各氏からいろいろ参考意見を伺うことにした。

第一回会議は七月二十五日(火)に開催された。

地域や学校と密着した美術館となるために、例えば館蔵品等についても、もっとPRするためのソフトの充実や広報活動の拡充についての要望等活発な意見交換がなされた。

博物館実習

平成元年度博物館実習は、7月31日(月)から8月12日(土)まで、2回にわけ24名の学生を迎えて行われた。

鶴見大学	2名
和洋女子大学	3名
実践女子大学	2名
学習院大学	1名
上智大学	1名
白梅学園短期大学	1名
武蔵野美術大学	1名
跡見学園女子大学	2名
東京家政学院大学	1名
千葉大学	7名
お茶の水女子大学	1名
東洋大学	1名
共立女子	1名

実習は、本館職員による講義や美術館活動の展覧会の企画から開催までの進め方、調書の取り方、情報資料の保存、資料カードの整理の仕方、作品の梱包、資料室の整備、アトリエ実技室の整備、また、美術館友の会活動についての在り方など、幅広い内容のものであった。

実習生は、暑期中、充実したスケジュールを熱心にこなすし、各大学間の理解と親睦をも深め、有意義な実習を終了していった。

美術館実技講座

★書芸講座(1)

期日 9月19・21・22日
講師 高木東扇氏
定員 25名
内容 かな
締切 9月5日(火)
会場 千葉県立美術館研修室

★陶芸講座(2)

期日 10月24・26・27日
11月17・18・21・22日
12月12・22日
講師 上瀧勝治氏
定員 30名
内容 半磁器
茶器、花瓶、壺など

◆金工講座

期日 10月31日・11月1・2・4・5・7・8・10・11・12・15・16日
講師 佐藤叔孝氏
定員 15名
内容 鍛金・彫金
締切 10月17日
会場 第2アトリエ

ごあんない・実技講座

友の会実技講座

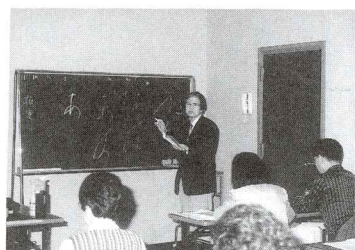
◆金工入門講座

期日 9月7日・8・9・12・13・14日
講師 小林正利氏
定員 20名
内容 銅版レリーフ
締切 8月24日
会場 第二アトリエ

★日本画講座

期日 9月20・21・22・26・27・28・29日
講師 五十嵐幹氏
定員 25名
内容 人物着衣
(10号)

締切 9月5日
会場 第二アトリエ



実技講座風景



実技講座風景

◎時間 美術館講座11時・12時
30分・4時30分

友の会講座10時・4時

◎申し込み方法 各講座とも住復はがきに、希望講座名・住所・氏名・電話番号・年令を明記のうえ、美術館普及課、(友の会講座は友の会事務局)までお申し込みください。
※復信用にも必ず、ご自分の住所・氏名をお書きください。

◎申し込み者が多い場合には抽選により参加者を決定いたしますのでご了承ください。

◎都合により、時に講座日時・日程に多少の変更が生じる場合があります。

美術講演会

○第2回

日時 9月30日(土)午後2時
会場 講堂
演題 「岸田劉生をめぐるいくつかの謎」
講師 瀬木慎一氏(美術評論家)

対象 一般200人(申込制)

※9月15日までに、住復はがきに住所・氏名を明記し、申し込んでください。

美術を語る会

○第4回

日時 8月26日(土)午後2時
会場 研修室
テーマ 「漆による私の制作のあり方」
講師 武田武弘(漆芸家)

対象 一般30人(当日受付)

○第5回

日時 9月16日(土)午後2時
会場 研修室
テーマ 「白樺派と近代美術」
講師 小池賢博(当館副館長)

対象 一般30人(当日受付)

なお、いずれの会も無料

日誌抄

5・20 第1回美術を語る会(講師原田実氏)

5・22 特別展「房総と近代美術」一部展示替
5・26 県立美術館・博物館合同課科長会議

5・30 美術館協議会会議
5・24 洋画実技講座(6・8日 10日間)

5・27 第1回美術講演会(講師高階秀爾氏)
6・6 関東地区博物館協会総会・研究会

6・16 利用団体連絡会議
6・24 第2回美術を語る会(講師関主税氏)

7・1 企画展、1房総の美術家シリーズ19「山本不二夫展」(7・30まで)

7・6 県立美術館・博物館庶務課職員研修(於県立総南博物館)

7・13 県立美術館・博物館学芸・普及課(科)職員研修(於美術館)

7・15 第3回美術を語る会(講師天野三郎氏)